

平成 30 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



高見 国生 (たかみ くにお)

1943 年 8 月 29 日生まれ

【授賞理由】

今日では当たり前にも語られる「認知症のある人もその家族も人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない」という理念の下で永年にわたり認知症のある人とその家族の心に寄り添い続けられました。この高潔な活動は多くの者に希望をもたらすと共に行政政策をも動かす大きな力となりました。

【略歴】

1962 年 4 月～2006 年 3 月 京都府庁 勤務
1980 年 1 月～2017 年 6 月 呆け老人をかかえる家族の会（現 公益社団法人認知症の人と家族の会）代表
2017 年 6 月～ 公益社団法人認知症の人と家族の会 顧問

【著書】

・「ああ認知症家族；つながれば、希望が見えてくる」（岩波書店）

【業績等】

認知症の人を介護する家族どうしが励ましあい助けあって介護への勇気を湧かせるとともに、認知症問題への関心を高め社会的支援を充実してもらうことを目的として、「呆け老人をかかえる家族の会」を 1980 年に結成。その後、認知症の人への理解をうながし、認知症の本人も家族とともに社会と組織の主人公であるべきとの立場で活動を続けてきた。社会的支援を求めて社会への呼びかけ・訴え、行政への要望活動も活発に行うとともに、国や自治体の審議会等で委員として積極的に発言・提言をしている。さらに、国際アルツハイマー病協会（ADI）に加盟し、2004 年、2017 年には国際会議を日本で開催、国際交流にも努めている。

介護に苦勞してきた者に、自分だけではないとの勇気を与え、日々の苦勞を乗り越える力を与えてきた。また、自分の経験を自己だけに終わらせず、後輩の家族を励ます活動に立ち上がる家族を多数生み出しており、この人たちが地域での認知症と家族への協力者となっている。当事者として発言してきたことは、特殊・特別な問題と思われていた認知症問題を、誰の身にも起こりうる普通の問題として、認識をうながした。そのことが社会の認知症への関心を高め、医療の進歩をうながし、行政施策の促進にも貢献してきた。

今後も自身の 8 年間にわたる養母の介護体験と 37 年間にわたる代表の経験を生かし、日々介護に苦勞している家族の応援を続けていきたい。